

「ごちゃまぜ」 あらゆる障害のない社会へ

GOCHAMAZE times

2020
SUMMER
vol.14

TAKE FREE

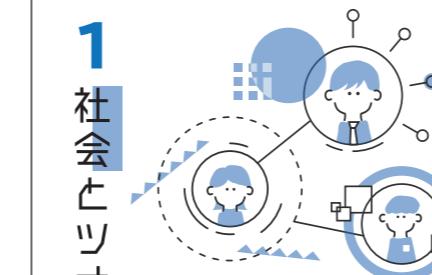


CONTENTS [特集] コロナとごちゃまぜ [Interview] 車椅子 YouTuber 高橋尚子さん and more...



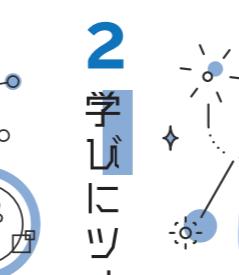
ソーシャルスクエアってこんなところ！

1 社会とつながる



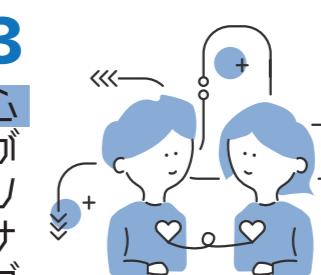
SOCIALSQUARE は英語で「社会とつながる広場」という意味。社会との接点をつくりたい方には居場所として、関わりを少しづつ増やしていく方には地域社会との交流の場として、あなたの一步を応援します。

2 学びにつながる



ずっと興味のあった資格取得を目指すもよし、SOCIALSQUARE の提供するプログラムに参加するもよし。覚えたことや感じたことを他者に共有できる環境があるからこそ、これまで得られなかった気づきや学びがあります。

3 心がつながる



同じ場所・同じ時間を過ごしたり、自分の困りごとを話したり。少しずつお互いのことを知り合う中で、きっとあなたにとって心地よい関係性が生まれるはず。なんでも相談できる場所へ。

**SOCIALSQUARE
メンバー募集中！**



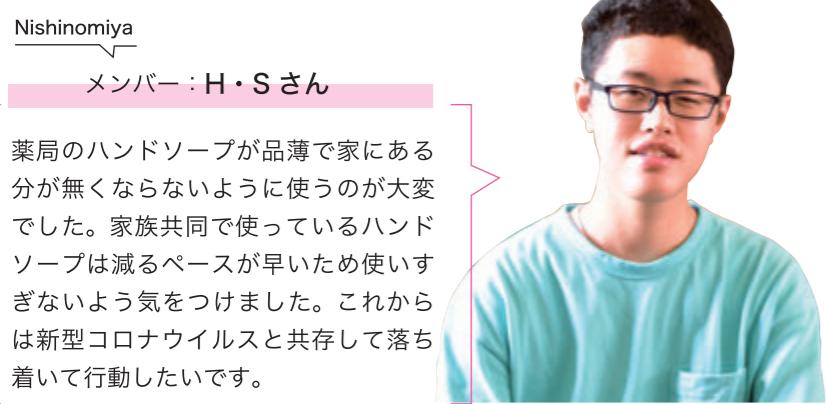
講師や寄付も募集しています！
詳しくは上記QRコードより
WEBをご参照ください !!



Kumamoto
メンバー：西本綾さん
出かけるときや定期的な通院のときにはマスクをしていないと、入るのが禁止という場所が多かったです。また、買い物などで出かける時も、営業自粛をしていたり早めに閉店していたりで入れなかったこともあります。



Iwaki
ファストフード店勤務：Y・Kさん
スクエアを卒業し、ファストフード店で働いています。コロナウイルスの影響でお客様が減ったので、働くスタッフも減らされてしまいました。今まで2人でやっていた作業を1人でこなさなければならず、困りました。



Nishinomiya
メンバー：H・Sさん

薬局のハンドソープが品薄で家にある分が無くならないように使うのが大変でした。家族共同で使っているハンドソープは減るペースが早いため使いすぎないよう気をつけました。これからは新型コロナウイルスと共生して落ち着いて行動したいです。



Iwaki Sports
メンバー：吉原竜一さん

ソーシャルスクエアは期限のあるサービスなので、コロナで事業所に通えない限り期限が短くなってしまうのではないかとう不安がありました。

MOGURA
グラフィックデザイナー
森亮太さん

Iwaki
「いつだれ kitchen」にとって、新型コロナはとても厄介な存在だ。なぜなら、いつでも誰でも来られる場所を大切にしているからです。そこには高齢の方をはじめ、リスクが高い人も含まれる。3月末早々に休止することにし、6月にようやく再開。テイクアウトなど、今後の場のあり方を模索しています。

コロナとごちゃまぜ

～災いが揺るがせた、人のあり方～

世界中が各自の家中で息を潜め、他者の物理的な接触を避けて過ごす中で、空港は閉じられ、県外のナンバーは排斥され、ごちゃまぜ編集部は悩みました。障害の有無、性別、年齢、国籍、文化、人種や宗教、性的指向などあらゆる違いのある人が、ごちゃまぜに集まる場所や状況を意図的に作ってきたわたしたち。不特定多数が集まることができない状況で、どう「ごちゃまぜ」を伝えていったらいつか…。

次ページでは「会えない困難な中でもさまざまない工夫を紹介！」

2019年の冬から、「新型コロナウイルス」。中国の湖北省武漢市で流行り出した原因不明の肺炎は、瞬く間に世界中に蔓延し、2020年6月現在では世界の感染者が1,000万人を超える、まさに未知の怪物となってしまった。いくつもの都市を閉鎖（ロックダウン）に追い込み、2020年に予定さ

れていた東京オリンピックは延期、経済活動は今なお低迷を余儀なくされています。新型コロナウイルスは、経済や環境だけでなく人々の「感覚」について変化をおこすきっかけにもなりました。「三密を避けろ」とこの言葉が合言葉のように言われるコロナ禍。三密とは、密閉・密集・密接の略で、それらを避けた行動模式、生活様式が求められます。

ヒトからヒトへ感染するこのウイルスは、非常に感染力が高く症状が出来るまでの潜伏期間も長いため、気づかないうちに他人に感染させ、その数を増やしました。例えば、会社のオフィスや会議室を避け、リモートワーク（在宅勤務）やオンライン会議で仕事をする人が増え、オフィス自体を地方に移転させる会社まで出てきました。また、アーティストのライバルや人が集まるイベントはオンライン配信という形がスタンダードになり、一つの時間や場所を大勢で共有する機会は格段に減りました。

他の地域への移動は制限され

いました。感染への恐怖は、いつも簡単に「人と人とのつながり」を変えてしまいます。でも

、いつも簡単に「人と人とのつな

がり」を変えてしまします。

それでも、新型コロ

ナウイルスの影響で、リモート

ワークやオンライン会議、イベ

ントなどを通して、場所に関係

なく人と繋がれる経験を多くの

人ができました。それは「自分

の目の前にいない人」を想像

します。会って話す「集

まつてコミュニケーションをと

る」手段が、強制的にできない

状況に追い込まれた世界で、考

える「あのひとのこと」。それは、

人ができました。それは「自分

の目の前にいない人」を想像

します。会って話す「集

表紙デザイン | 渡辺 香 (わたなべ かおり)

SOCIALSQUARE いわき店
福島県いわき市出身。大学では映像メディア、メディアアートを専攻。大学助手などを経て広告業界でクリエイティブ企画制作を担当。地元へUターン後は、いわきを拠点に活動を開始。2018年夏よりソーシャルデザインワークスの活動に携わる。

最新記事は WEB の GOCHAMAZETimes で！



<https://gochamaze.jp>

今回の特集やインタビューの全文を公開中！過去のタブロイドのアーカイブはもちろん、ウェブ限定のインタビューや対談など、ここでしか読めない記事も豊富にあります。ぜひ一度ウェブ版をご覧になってみてください。

WHO WE ARE



詳しくは web をご覧ください。
<https://sdws.jp>



NPO法人ソーシャルデザインワークス
私たち「すべての仲間の幸せを追求すると共に誇めない社会を創る」を理念に掲げているNPO法人です。2019年現在、福島県いわき市、兵庫県西宮市、熊本県熊本市で障害福祉サービス事業所を軸とし、障害の有無や性別、国籍、年齢など一切関係なく、様々な属性の方が自然に交流ができる機会を、ごちゃまぜイベントと題し企画運営しています。また、ごちゃまぜの発信・広報を行っています。



オンライン宿泊「WhyKumano」

WhyKumano 代表
後呂 孝哉さん

オンラインイベント

コロナの中でも人とつながれる
「あつまれどうぶつの森」

©Nintendo.



オンライン美術館「HASARD」

オンライン宿泊とは、実際の宿泊ではなくWEB会議システム「zoom」を活用した“家にいながら旅の気分を味わうことができる「仮想宿泊体験」です。ゲストハウスで起る“出会い”や“交流”をオンライン上で再現します

コロナ禍で注目を浴びているのが、オンライン美術館HASARD。「アートを、もつと身近に」をコンセプトに、「誰でも、いつでも」気軽にアートと触ることのできる場所を提供している。スマートフォンやパソコンの画面上から様々な展示作品を無料で見ることができ、アーティストが個展を開催することも可能。外出自粛期間も大活躍のオンラインサービスでした。

オンライン宿泊とは、実際の宿泊ではなくWEB会議システム「zoom」を活用した“家にいながら旅の気分を味わうことができる「仮想宿泊体験」です。ゲストハウスで起る“出会い”や“交流”をオンライン上で再現します

なんですが、zoomだと会話が

純にやつたことがないから。やりながら方向性を決めて行くしかなかつたですね。でも一方で、そんな試行錯誤で学んだこともあつたと思うんです。皆さん、どうでしょ。

八本 それでいうと、通所すると室内での活動が基本じゃないですか。でも、オンラインだと音声だけで繋がったり、チャットを使ってコミュニケーションしたり、いろいろやり方がある。選択肢が広がったことで、通所の時は週1、2回しか予定を入れてなかつたメンバーさんが週5回活動できたりとか、そういうのはありました。

奥田 場面緘黙(ばめんかんもく)人が多い空間や初めての場所などある特定の状況になると話ができるなくななどの特性)の方にとってはzoomがいいなって思いましたよ。チャットでやりとりできるんで伝えやすい部分があつたと思います。それに、在宅での就職を目指している人にとては、すごく実践的な練習ができたんじゃないかなと思います。

メールで連絡・報告のやりとりをしたりとか。

藤木 ソーシャルスクエアって通所でもらえるようについてコンセプトだけ、家のほうが落ち着いてやれる人もいるんだなっていうのは大きな発見でしたよね。支援の幅は確実に広がったと思います。

脇谷 オンラインでの支援を始めてから関係が深まつたメンバーさんも結構いますよね。以前よりもおしゃべりする時間が増えた方がいました。コミュニケーションのハードルが下がつて、しばらく来れていないかったメンバーさんとコミュニケーションをとれた時はよかったです。

渡辺 支援の幅が広がつたり、これができるじゃんってことが見つかることで、支援の枠組みや制度の面でもアップデートできる気がするんですけど、そのあたりはどうでしょうか。例えば私は、もし行政がOKを出してくれるなら、在宅は続けていていいんじゃないかなって思つてます。

変化の時代に求められる対応力

渡辺 支援の幅が広がつたり、これができるじゃんってことが見つかることで、支援の枠組みや制度の面でもアップデートできる気がするんですけど、そのあたりはどうでしょうか。例えば私は、もし行政がOKを出してくれるなら、在宅は続けていていいんじゃないかなって思つてます。

奥田 なんかも福祉側で「こういうことしかできません」ではなく、利用者さんがどういう希望を持っているのかヒアリングをして、そこに合わせた支援をしていくべきだと思います。

三戸 声の小さいメンバーさんもいました。

実施が延期になりオンラインマーチを行いました。地域との「ごちやまぜ」の機会は、やっぱりかなり減りましたよね。

藤木 福祉のオンライン勉強会も増えたし、アートの分野では「HASARD」さんがやっているオンライン宿泊イベントとも、試行錯誤の末だったと思います。結婚式をやつたり、同窓会を「あつ森」の中でやつたり。

大森

緊急事態宣言中は、割と色々な団体が試行錯誤でオンラインで何かできないか模索した時期でもありましたね。結婚式をやつたり、同窓会を「あつ森」の中でやつたり。

普段からやつていた人は、余計にやりやすい環境になつた。怪我の功名みたいなところもあつたのかなという気はしますね。

渡辺

まずはお互いがつながって喋れる、お互いの声が届いて、お互いの顔が届く状態にする。そこに到るまで手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。それに、ひとりひとりパソコンはあるか、デバイスは何持ってるとか。そういう細やかな対応を通して、さら個人の置かれている家庭の状況がわかつたつことはあるかも。

大森 西宮は特定警戒都道府県だったので、都市間の移動を極力避けようともち全体の傾向として「リモートワーク」が標準化していました。クルーが勤労できず、在宅勤務も同時に進めていた余計に大変でしたね。

三戸

在宅のクルーが在宅のメンバーさんの対応をするという感じでしたね。現場には3人くらいしかいませんが、電話とかが入るともう何でを手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。

大森 まずお互いがつながって喋れる、お互いの声が届いて、お互いの顔が届く状態にする。そこに到るまで手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。

渡辺

それに、ひとりひとりパソコンはあるか、デバイスは何持ってるとか。そういう細やかな対応を通して、さら個人の置かれている家庭の状況がわかつたつことはあるかも。

大森 まずお互いがつながって喋れる、お互いの声が届いて、お互いの顔が届く状態にする。そこに到るまで手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。

三戸

在宅勤務で対応しましたね。西宮ほど多くはなかつたですが、

大森 脳内は特定警戒都道府県だったので、都市間の移動を極力避けようともち全体の傾向として「リモートワーク」が標準化していました。クルーが勤労できず、在宅勤務も同時に進めていた余計に大変でしたね。

三戸

在宅のクルーが在宅のメンバーさんの対応をするという感じでしたね。現場には3人くらいしかいませんが、電話とかが入るともう何でを手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。

大森 まずお互いがつながって喋れる、お互いの声が届いて、お互いの顔が届く状態にする。そこに到るまで手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。

渡辺

それに、ひとりひとりパソコンはあるか、デバイスは何持てるとか。そういう細やかな対応を通して、さら個人の置かれている家庭の状況がわかつたつことはあるかも。

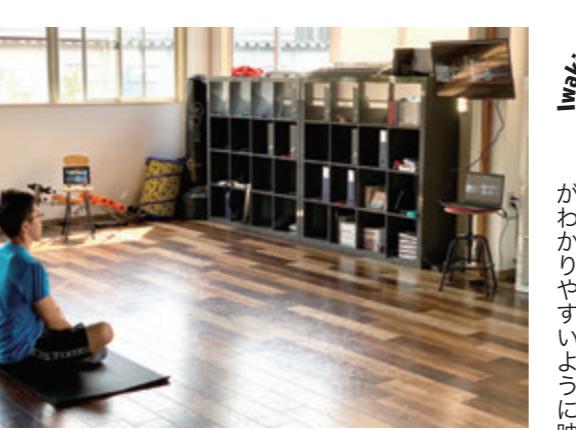
大森

渡辺

大森 まずお互いがつながって喋れる、お互いの声が届いて、お互いの顔が届く状態にする。そこに到るまで手順化したり、メンバーさんに渡してきましたのはよかつたですね。

三戸

在宅勤務で対応しましたね。西宮ほど多くはなかつたですが、

Iwaki Sport
Vol.3

zoomを利用して、在宅でも運動ができるように筋トレやストレッチのカリキュラムを提供した。姿勢などがわかりやすいようにカメラを2台用意し、2方向から体の動かし方がわかりやすいように映像を配信した。

コロナ禍いろんな取り組みありました

在宅支援

Nishinomiya
Vol.1Iwaki
Vol.2

スクエアを利用して就職をした「卒業生にお話を聞く会」をオンライン配信。リアルでもオンラインでも好きなスタイルでお話を聞ける機会を設けました。就職に対する不安や仕事を続けていく工夫、自分の悩みを卒業生に聞いてもらうなど双方のコミュニケーションができたと好評でした。

ソーシャルスクエア広報クルーア集合 ごちやまぜクルー 座談会



全国4拠点をつないでのオンライン座談会

高橋尚子さん

インタビュー「ごちやませな人」第14回

高橋尚子さん

『しようじちゃんねる』というYouTubeチャンネルで、自身の体験を淡々と語る女性。派手な演出があるわけでもなく、有名人が出演することもないが、どうしてこうも夢中になつて見てしまうのでしょうか。不慮の事故により、頸髄を損傷し車いす生活になつたにも関わらず、生き生きと暮らす彼女の「生」を垣間見ることのできるYouTubeチャンネルの登録者は約4万人。WEBデザイナーとして働き、車も一人で乗りこなす。そんな彼女のこれまでと、これから望む社会の在り方を聞いてみました。



車いす生活になつたきっかけは高校3年生の1月の事です。当時卓球部に所属していた私は、大会で東京に行つており、空港から寮までの帰り道で事故に遭いました。その時は“生きててよかったですなあ”と思いました。しかし、首の骨が折れ頸髄を損傷し、鎖骨から下が麻痺してしまいました。身体の機能には個人差があるので、損傷位置が同じでも症状が一致するわけでは無いのですが、私の症状としては、足は全く動かせません。暑い・寒い・痛い・痒いなどの感覚もありません。腕は曲げる事が出来る角度や範囲が限られていて、握力が無い状態です。体幹の保持が難しく腹筋・背筋が効かないでの、倒れてしまうと自力で起き上がる事もできません。他にも排泄障害や、自律神経の機能を失っています。自律神経を失つてしまふと、汗をかけなかつたり、体温調整ができなかつたりとなかなかか変で。また、寝た状態から急に起き上がったり、リハビリの起立訓練中に血圧が一気に下がってしまう”起立性低血压”という症状もあり、なかなか血圧のコントロールが難しく、四苦八苦しています。こういった症状なので家族のサポートやヘルパーさんに支えながら、車いす生活も9年目を迎えました。

WEBデザイナーの仕事以外にも、熊本のバリアフリー化を進めるために『くまバリ（くまもとバリアフリー・プロジェクト）』を2019年8月に立ち上げました。きっかけは、私が車いす生活になつて気づいた事の多さでした。家族や友人の存在、人の優しさというソフト面はもちろん、街中の段差の多さや障害を持つている人には困難な施設などがまだまだ多いというハード面。そういう気づきや感じた事をもつといろんな人に知つて欲しいと始めました。「バリアがある」という事を知つていてか知らないかだけでも人の気持ちを変わるとと思うし、何よりバリアフリーを必要としてない人にこそ知つて欲しいと思い、YouTubeで発信する活動を始めました。くまバリと一緒に立ち上げた中川典彌さんに動画のノウハウを教えてもらい、手探りで配信し、2019年10月には約4万人の方にチャンネル登録をしていただけています。『くまバリ』としての今後は、WEB上のコミュニティを作つたり、集まつた人のスペックを集め約して商品開発など出来ればと企んでいます。これからは

私自身、ハンデがあるからということ
で最初から「これダメ、あれダメ」とい
う思考はやめていて。その一つが自分
になつた時に諦めなくてはいけない事
が多かつたんですが「自由になりた
い！」と一念発起し、2014年に自
動車免許を取得しました。手動装置の
車がある教習所に通い、自分の車も車
いす用に改造してもらいました。今で
はいろんな装置や装具を駆使し一人で
車を乗りこなせるようになつたんです。
車いすも自動で収納出来る造りなので、
自宅から出先まで自分で動ける事
に、最初は心底感動しました。乗り降
りや運転に慣れるまでは半年ほどかか
りましたが、行動範囲が広がり、事故
にあつて車いすに乗る前よりも世界が
広がつた気がします。

A group of approximately ten people are gathered around a large wooden conference table in a room with white walls. In the center of the table, there is a pink water bottle and some papers. The people are engaged in a discussion; one woman wearing a blue face mask and a black patterned top is speaking. The room has a whiteboard on the right side with some writing on it.

いわき店は「社会とつながる一歩・自立訓練(生活訓練)」と「働くをあきらめない・就労移行支援」そして「働きつづけるための就労定着支援」など様々なサービスを提供できる事業所に成長しました。

今回は定期的に行なっている「卒業生とのお話会」をご紹介。スクエアを利用し卒業した元利用者さんと現利用者さんが話をする機会を設け、先輩たちと不安を解消していくような取り組みや、業種や職種によって体感した実体験などを交えて同じ障害を持つ方の視点や工夫、会社からの配慮を学ぶことができます。もちろん、就職だけでなく、地域の方々にご協力をいただきながら生きづらさを抱えるかたがたの「社会とつながる」をサポートしています。

福島県いわき市内郷内町水之出17
ソーシャルスクエアビル 1F
080-3525-9426
ss_iwaki@sdws.jp

いわき

ここが、
はじまりのスクエア



SOCIAL SQUARE Sportsでは定期的に運動のカリキュラムを取り入れています。

筋トレや体幹トレーニングのカリキュラムでは、最初の頃はなかなかついてこれなかつた利用者さんが、最近では支援員がびっくりするくらいトレーニングについてきています。

体力がついてくることで生活リズムが整つてきたり、通所日数を増やすことにも繋がってきてるのでスポーツの良い効果が現れているなど感じます。

卓球などをすると、自然とお互いに教え合う姿が見られたりもするので、コミュニケーションをする上でもスポーツはすごく効果的だなと思います。

今後もスポーツを通じてより良い支援の



自立訓練の利用者さん中心に寄稿する西宮店オリジナルの季刊誌『SQUARE TIMES』が、5月に第10号の発刊を迎えました。

完成後は発表会を行い、寄稿した利用者さんもそうでない方も、それぞれの記事を読んでの感想やアドバイスを伝え合うなどしています。

これまで2回、3回と記事の執筆や発表会への参加をしている利用者さんがいるためか、今季の発表会ではそれぞれが主体的に、楽しみながらその場に関わるうとする姿が印象的でした。

今回は寄稿できなかつた利用者さんも、発表会に参加したことで「次回は記事を書こう」とやる気が湧いてきたようで、次号はどんな内容になるのか完成がとて

兵庫県西宮市中前田町 1-27
ラビットビル 1F
090-8377-4839
ss_nishinomiya@sdws.jp

西宮

きつかけ生まれる
プラットホーム



熊本店では、得意不得意の発見やコミュニケーションのきっかけ作りを目的に、様々なカリキュラムを行っています。保冷剤を使ったアロマ消臭剤や、100均商品で作れるハーバリウム、日本の伝統を感じるつまみ細工なども製作しています。「細かい作業は苦手」とおっしゃっていた利用者さんも笑顔で楽しんでいましたよ！「大人数での参加は難しい」という方は個別で取り組まれ、ご自身のペースで参加頂けたようでした。

また、熊本店では物づくりだけではなく季節に合わせたカリキュラムや講義形式のカリキュラムも提供しています。コロナウィルスの影響でイベントが中止になる中、今後も利用者さんが少しでも楽しめるよう企画していきます。

QRコード

熊本デザイン

一人ひとりの人生を
デザイン

熊本県熊本市中央区水前寺公園 3-4
土山天祐堂ビル 2F

070-7587-9202

ss_kumamoto@sdws.jp

今回の特集は世界中を混乱に陥れた新型コロナ。編集会議でも、「コロナ」を取り上げることは賛否両論ありましたが、避けては通れないということで「コロナがもたらしたもの」という切り口で特集化してみました。どの時代にも困難はあると思います。今を今らしく考えて生きることは、自分が自分らしく生きられることに繋がるのではないかーと思っています。

GOCHAMAZE times 2020 夏号